



第二中学校だより

令和5年4月号

↓二中ホームページ↓



「明るい挨拶 光る汗 きれいな学校 きれいな心」

入学、進級おめでとうございます。

校長 小関 直

本日、新入生338名を迎え、全生徒981名で令和5年度がスタートしました。一人一人の生徒が将来の自立や自己実現に向け、確実に成長できるように教職員一丸となって支援してまいります。保護者、地域の皆様のご協力をお願いします。

さて、3年間にわたり世界的に猛威を振るった新型コロナウイルスもようやく収束傾向となり、5月8日以降は、インフルエンザと同様の扱いとなります。with コロナに合わせ、学校の在りようも変化します。コロナ禍の子供たちを不憫に思う向きもありますが、それは大人の感覚であり、実際は多くの子供が逆境に立ち向かい、その時代を力強く生きてきたのではないかと感じます。子供は、常に前向きな存在です。コロナ禍で学んだことも多くあるはずで、ですから、時代を前に戻すのではなく、新たな学校文化の創造期ととらえ、豊かな中学生時代が実現できるよう邁進していきたいと考えています。

他律から自律へ

そうした時期にある学校は、「自律的な学び」を重視する方向へ大きく舵を切っています。かつての学校は、先生が黒板の前に立ち、知識を中心に子供に教える一斉指導が主流でした。話を聞く、ノートをとる、指名されたら答える、といったスタイルは「他律的な学び」ともいえます。保護者の方の多くもそうした授業で学んできたのではないかと思います。そうした学び方は、今なお有効ではありますが、先行き不透明な時代にあって、生きてはたらく力とはなりえなくなってきました。自律的な学びのポイントとしては

- ・生徒が自分で学ぶ力を身につけることを目指す。
- ・個人差や興味・関心に合わせた学びを尊重する。
- ・21世紀に必要な力として、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力・協働力」の両面を重視する。
- ・ICTを積極的に活用し、情報リテラシーを養う。
- ・生徒が主体的に学び、さまざまな課題に取り組

む機会を提供する。

・多様な評価方法を導入し、生徒の成長を見守る。などが挙げられます。文部科学省は、これらを「令和の日本型学校教育」と総称し、これからの時代を力強く生きる子供たちに生きる力をはぐくもうとしています。

学力の向上

本校は、ご承知の通りICTを積極的に活用し、かつての授業スタイルを一変させようとしています。「個別最適な学び」や「協働的な学び」（令和の日本型学校教育の最重要となる視点）の実践は、生きてはたらく学力を身につけるためには欠かせないものです。そして、その重要な役割を果たすのがICTということになります。

ICT教育全国No1となった新座市にあって、その取組を牽引する本校としては、今年度もその取組を前進・深化させてまいります。（県内外からの視察が多く、ちょっと大変な面もありますが…）

伏せたコップには何もたまらない

本日、入学式、始業式で話した内容です。

コロナ禍を経験した子供たちを見ていると、何かと制限が多かったためか、“自信のなさ”や“人目を気にする様子”がうかがえます。まるでコップを伏せ、余計な情報や人間関係が不用意に入り込んで傷つかないようにしているようにも感じます。

心が閉じ加減だと、よいアイデアやもっとよい未来をもたらすチャンスを逃してしまう可能性があります。開かれた心を持っていれば、多少傷つくリスクは負いますが、新しいアイデアやチャンスを受け取り成長することができます。自分で行動しなければ何も起こりません。

今年度は、マインドチェンジで飛躍する絶好の年です。お子さんが、自己対話で勇気がためられるよう、保護者の皆様には、そっと後ろを押していただけたらと思います。